



てき丸君News 第15号

発行：公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目1番17号

TEL 03-3224-0811

FAX 03-3224-0820

http://www.zensanpairen.or.jp

第24回理事会を開催 定時総会提出議案など審議

当連合会の第24回理事会を5月26日に開催しました。

今回の理事会では、6月12日に第5回定時総会の開催を控えていることから、総会に提出する議案（平成26年度事業報告及び決算案等）や全国産業廃棄物連合会会長表彰の候補者を中心に、総会の運営等にかかわる議題が審議されました。

そのほか、当連合会の「低炭素社会実行計画」の決定（同計画のポイントについては4ページに掲載）や産業・資源循環議員連盟との懇談会についての報告（懇談会の模様は2ページに掲載）などが行われました。

なお、理事会の議事や総会提出議案の内容は、後日会員の皆様にお示しいたします理事会議事録及び総会議案書をご覧ください。

●連合会会長表彰 総勢370名が受賞●

全国産業廃棄物連合会会長表彰の候補者については、理事会での審議の結果、総勢370名の方々が受賞されることとなりました。受賞者の皆様、誠におめでとうございます。（功労者及び優良事業所の受賞者を5ページに掲載しています。）

表彰種類	受賞者数
功労者表彰	25
地方功労者表彰	71
優良事業所表彰	22
地方優良事業所表彰	114
優良従事者表彰	138
計	370

第5回定時総会及び関係行事開催概要

◆開催日 平成27年6月12日（金）

◆場 所 明治記念館

東京都港区元赤坂2-2-23

TEL 03-3403-1171

◆行事時間帯・会場

・臨時理事会 13:00~13:15

会場 鳳凰の間

・総会・表彰式 13:30~16:15

会場 蓬莱の間

・講演会 16:30~17:30

会場 蓬莱の間

演題 はとバス再建から得た教訓

—私の実践的企業経営論—

講師 宮端 清次 氏

株式会社はとバス（元）社長

・懇親会 18:00~20:00

会場 富士の間

●講演会は「はとバス」の宮端清次さん講師に●

定時総会閉会後の講演会は、株式会社はとバス（元）社長の宮端清次（みやばた きよつぐ）さんを講師に迎え、「はとバス再建から得た教訓—私の実践的企業経営論—」のテーマで行うこととなりました。

宮端さんは、倒産寸前といわれた当時のはとバスの社長に就任され、同社をV字回復させた経営者です。ご期待ください。（総務部・古川）

産業・資源循環議員連盟幹部と活発に意見交換

産業・資源循環議員連盟幹部と当連合会幹部等との懇談会が、環境省幹部も参加されて、5月25日に東京都千代田区のホテルルポール麹町において開催されました。

最初に、片山さつき議員連盟事務総長より開会挨拶があり、続いて、丹羽雄哉議員連盟会長から挨拶がありました。「議員連盟発足後はじめての懇談会開催である。産業廃棄物業界には多くの課題があるが、直面する課題として東京オリンピック・パラリンピックに向けた建設工事、建築物の解体など、首都圏では建設ラッシュを迎えつつある。これらの進展に伴い、廃コンクリートや建設汚泥など建設副産物の大量に発生する再生資材をいかに有効活用して行くべきか、そのための保管をどのように考えるかなど、課題が山積しており、これらに迅速に対応することが重要である。」



引き続き、石井邦夫連合会会長、國中賢吉政治連盟理事長から産廃業界の抱えている課題の解決に向けて議員連盟の活動に期待する旨の挨拶があり、議事に入りました。

議論のテーマは、①産業廃棄物業界における主要な課題、②建設廃棄物リサイクル（コンクリート再生砕石、建設汚泥リサイクル）、③今後の意見交換の進め方であり、森谷専務理事及び浜野建設廃棄物部会長が①、②について具体的事例を交えながら説明しました。

意見交換では、議員連盟の先生方から次のような発言がありました。災害廃棄物対策のための廃棄物処理法及び災害対策基本法の改正案作成については連合会からの意見を可能な限り反映させたこと、低炭素化社会の実現に向けての提案を、産業廃棄物処理業界として優先順位を整理したうえで聞かせて欲しいこと、地方公共団体との産廃処理の契約における環境配慮契約法の適用に向けて、環境省は総務省などへの働きかけを強化する必要があること、連合会として正会員の会員企業の中で優良認定業者を増やす努力を進めるとともに、優良認定事業者が市場で優位となるために必要な施策を立案すべきこと・環境省からも具体的な提案を聞かせて欲しいこと、リサイクル製品の利用促進に向けて連合会としてグリーン購入法が活用されるよう国に働きかけること。

これらに対し、連合会出席者から、過去10年余りの産廃業界の変化と事業展開における実情・課題が報告されるなど活発に意見交換が行なわれました。

最後に、今後も定期的に意見交換を進めながら、実際の行動につなげるために重要度や優先順位を協議し、具体的に中身のある活動を継続していくことを確認し懇談会は終了しました。

当日の出席者は次の方々です（順不同・敬称略）。

【産業・資源循環議員連盟】

丹羽雄哉（会長）、田中和徳（会長代行）、渡辺博道（幹事長）、吉野正芳（幹事長代行）、片山さつき（事務総長）

【公益社団法人全国産業廃棄物連合会】

石井邦夫（会長）、小田島繁信（総務倫理委員長）、永井良一（法制度対策委員長）、武田全弘（安全衛生委員長）、三谷純夫（教育研修委員長）、浜野廣美（建設廃棄物部会長）、森谷賢（専務理事）

【全国産業廃棄物連合会政治連盟】

國中賢吉（理事長）、藏本忠男（副理事長）、川本義勝（業法担当理事）

【環境省】

鎌形浩史（廃棄物・リサイクル対策部長）、山本昌宏（企画課長）、和田篤也（廃棄物対策課長）、角倉一郎（産業廃棄物課長）

（調査部・香川、政治連盟事務局・土井）

神奈川県協会第3回安全衛生大会を開催



安全衛生スローガンの表彰

講演があり、最後に、神奈川県産業廃棄物協会相談役の長谷川滋氏がコーディネータを努め、大会当日に参加者から出された質問などに対し、2人の講師と共に回答が示されました。

会場ロビーでは各種保安用品が展示され、開会前や休憩時間に参加者がそれらを手にとったり、熱心に説明を聞いていました。

(調査部・香川)

公益社団法人神奈川県産業廃棄物協会（古敷谷裕二会長）は、平成27年5月12日に横浜情報文化センターにおいて第3回安全衛生大会を開催し、会員企業など130名が参加しました。

古敷谷会長の挨拶の後、安全衛生スローガンに関する表彰式が行われ、会員企業から応募された合計108件の中から、最優秀賞1点、優秀賞2点が発表され、古敷谷会長から表彰状と副賞が贈られました。

続いて、神奈川県労働局労働基準部安全課安全専門官の赤前幸隆氏から「産業廃棄物処理業界における労働災害の現状と直ちにに取り組むべきこと」、労働安全コンサルタントの二階堂久氏から「処理現場の危険作業・危険箇所と具体的な対処方法」という演題でそれぞれ



保安用品の展示

平成27年度全国正会員事業研修会を開催

当連合会では、連合会及び各正会員の事務局担当者の知識向上と情報交換などを目的として毎年全国正会員事業研修会を行っています。

第1回目の開催（4月27日）については、てき丸君News 5月号で報告したところですが、第2回目を5月15日に開催し、正会員の事務局担当者26名が参加しました。

研修会には、前回同様にJWセンターの職員もご参加いただき、電子マニフェスト運用支援業務にかかる内容の他、日常業務の円滑な実施などについて活発な意見交換が行われました。（調査部・福田）



官公庁関係ニュース

●支障除去等に対する支援に関する検討会（第2回）を開催●

支障除去等に対する支援に関する検討会（座長＝新美育文・明治大学法学部専任教授）の第2回会合が、5月27日に公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団の会議室で開催されました。

当日は、環境省から前回検討会における質問事項への回答及び平成28年度以降の支援のあり方についての論点整理が説明された後、質疑応答及び意見交換が行われました。

http://www.env.go.jp/recycle/ill_dum/com_support-restore/index.html

(総務部・古川)

●第1回大規模災害発生時における災害廃棄物対策検討会を開催●

第1回大規模災害発生時における災害廃棄物対策検討会が、5月27日に開催されました。同検討会は、昨年度の巨大地震発生時における災害廃棄物対策検討委員会から名称を変更し、委員長には酒井伸一・京都大学環境科学センター長が選任されました。また、委員として当連合会の森谷専務理事が参加しています。当日は、「大規模災害発生時における災害廃棄物対策行動指針（仮称）（骨子）」等について検討が行われました。

<http://www.env.go.jp/recycle/waste/disaster/earthquake/conf/27.html>

(総務部・古川)

【経済産業省】

◇平成27年度省エネルギー型建設機械導入補助金

<http://www.meti.go.jp/press/2015/05/20150518008/20150518008.html>

低炭素社会実行計画のポイント

【削減対象】

中間処理業及び最終処分業における焼却や最終処分等の処理、収集運搬業における燃料消費等から排出される温室効果ガス（二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素）の排出量を削減対象としています。

【目標】

目標については、旧計画同様、正会員の会員企業が2020年度における温室効果ガス排出量を全体として基準年度の2010年度と同程度（±0%）に抑制し、2020年度の目標達成は、2018年度～2022年度の5年間の排出平均値をもって評価します。

なお、2030年度の目標については、国等からの十分な支援の下、2020年度における目標と同程度以上とするものとし、具体的な目標値については、低炭素化に向けた取組の現状と見通しを踏まえ、今後検討することとなります。

【取り組み】

削減対策の取組の方向としては、中間処理業、最終処分業、収集運搬業における各業種の特徴を踏まえた下表の温室効果ガス排出抑制対策が想定されています。

【実態調査】

会員企業に対する実態調査を実施し、新計画の進捗状況を定期的に点検・評価してまいりますので、ご協力を賜りますようお願い致します。

なお、各業種における個別の目標については、実態調査等による情報収集を実施しながら、具体的な検討を行ってまいります。
(事業部・横山)

中間処理業	焼却時に温室効果ガスを発生する産業廃棄物の3R 促進 産業廃棄物焼却時のエネルギー回収の推進 温室効果ガス排出量を低減する施設導入・運転管理
最終処分業	準好気性埋立構造の採用 適正な最終処分場管理 生分解性廃棄物の埋立量の削減 最終処分場周辺地及び処分場跡地の緑化・利用
収集運搬業	収集運搬時の燃料消費削減 収集運搬の効率化・最適化 バイオマス燃料の使用
全業種共通	省エネルギー行動の実践 省エネルギー機器への買い替え

●INDUST 6月号特集「産廃事業者の優良化」●

産業廃棄物処理事業者の資質の向上と業界の健全化等を目的として、2011年の廃棄物処理法改正から優良産廃処理業者認定制度が施行されました。業界・業者の優良化に対して象徴的な役割を担う同制度は、環境配慮契約法に代表される幾つかの優遇措置もあり、認定件数が拡大し続けています。

2015年1月時点での優良認定事業者は824社、許可総数ベースでは5,662件に及ぶものの、排出事業者や一般の国民に対する認知度の低さや取得コストに見合った実益が伴わないなど、課題も挙げられています。そこで、今号では、産廃事業者の優良化の現状と課題を探ります。
(事業部・東方)

- 主な行事予定 - (6月12日～7月28日)

【6月】

- 12日 第5回定時総会
- 17日 第1回建設廃棄物部会運営委員会
- 18日 青年部協議会幹事会
- 19日 タスクフォース会合
- 24日 第1回収集運搬部会運営委員会

【7月】

- 2日 実務者研修会（石川）
- 8日 第2回法制度対策委員会
- 14日 第25回理事会
- 16日 第1回マニフェスト推進委員会
実務者研修会（滋賀）
- 22日 実務者研修会（神奈川）
- 28日 第1回最終処分部会早期安定化分科会

連合会会長表彰「功労者」及び「優良事業所」の受賞者の皆様

<功労者>

- 関根 信（岩手） ○八嶋 利悦（宮城） ○鈴木 昇（宮城） ○後藤 薫（秋田）
○関野 義治（栃木） ○岸 敏弘（群馬） ○福田 寛栄（埼玉） ○加藤 宣行（東京）
○大野 徹（神奈川） ○大山 吉之（福井） ○木下 雅裕（長野） ○関 則雄（静岡）
○石山 進（愛知） ○東川 強（三重） ○中垣 浩二（京都） ○川崎 勝也（奈良）
○森脇 敏夫（和歌山） ○伊藤 源蔵（鳥取） ○小川 勲（広島） ○村上 信彦（山口）
○吉田 秀人（徳島） ○西山 周（愛媛） ○加藤 晴夫（大分） ○安在 哲幸（宮崎）
○永池 重久（鹿児島）

<優良事業所>

- 北海道衛生工業株式会社（北海道） ○株式会社丹野（山形）
○株式会社あいづダストセンター（福島） ○鈴運メンテック株式会社（栃木）
○石坂産業株式会社（埼玉） ○株式会社NIPPON千葉合材工場（千葉）
○株式会社タケエイ（神奈川） ○新潟ガービッチ株式会社（新潟）
○広井建材運輸株式会社（富山） ○株式会社北陸油化（石川）
○岐阜代用燃料株式会社（岐阜） ○株式会社東伸サービス（愛知）
○株式会社共同（三重） ○株式会社中作（奈良）
○株式会社ヴァイオス（和歌山） ○株式会社新岡山工業（岡山）
○熊谷興業株式会社（山口） ○酒井興産株式会社（愛媛）
○株式会社吉永商会（熊本） ○井上化学工業株式会社（大分）
○株式会社藤井建設（宮崎） ○株式会社外菌運輸機工（鹿児島）

以上、掲載順不同・敬称略。括弧内は推薦都道府県協会。